

再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：茅野 牧夫

事業名	一般国道258号 <small>だいそう</small> 大桑道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中部地方整備局																					
起終点	自：岐阜県大垣市楽田町 至：三重県桑名市大字小貝須字柳原	延長	41.6 km																							
事業概要	<p>一般国道258号大桑道路は、岐阜県大垣市楽田町から三重県桑名市大字小貝須字柳原に至る延長41.6 kmの道路であり、国道258号周辺及び西濃・滋賀方向から名古屋港・四日市港への物流軸を担う唯一の主要幹線道路であり、交通渋滞の緩和、物流効率化の支援を目的に計画された道路です。</p> <p>平成24年度末迄に起終点両側から26.6 kmが4車線化開通済であり、大垣市・桑名市内における交通混雑の緩和に寄与してきました。</p> <p>残る15.0 kmの暫定2車線区間には、主要渋滞箇所（1箇所）の存在、産業物流における定時性の欠如や高次医療施設へのアクセスなどの多くの課題があり、本事業は、課題解決のために引き続き4車線化整備をすることで、暫定2車線区間の渋滞損失時間を約1割減する等の効果を見込んでいます。</p>																									
S40年度事業化	S40年度、S43年度 S53年度都市計画決定 (H8年度変更)	S40年度用地着手	S40年度工事着手																							
全体事業費	310億円	事業進捗率	85%	供用済延長	26.6 km																					
計画交通量	26,500台/日																									
費用対効果 分析結果	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-right: 1px solid black;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-right: 1px solid black;">B/C</td> <td style="width: 50%;">2.3</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black;">(事業全体)</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black;">(残事業)</td> <td>4.9</td> </tr> </table> </td> <td style="width: 50%;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-right: 1px solid black;">総費用</td> <td style="width: 50%;">(残事業)/ (事業全体) 94/763億円</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black;">(事業費)</td> <td>38/608億円</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black;">(維持管理費)</td> <td>56/155億円</td> </tr> </table> </td> </tr> </table>	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-right: 1px solid black;">B/C</td> <td style="width: 50%;">2.3</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black;">(事業全体)</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black;">(残事業)</td> <td>4.9</td> </tr> </table>	B/C	2.3	(事業全体)		(残事業)	4.9	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-right: 1px solid black;">総費用</td> <td style="width: 50%;">(残事業)/ (事業全体) 94/763億円</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black;">(事業費)</td> <td>38/608億円</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black;">(維持管理費)</td> <td>56/155億円</td> </tr> </table>	総費用	(残事業)/ (事業全体) 94/763億円	(事業費)	38/608億円	(維持管理費)	56/155億円	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-right: 1px solid black;">総便益</td> <td style="width: 50%;">(残事業)/ (事業全体) 464/1,751億円</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black;">(走行時間短縮便益)</td> <td>442/1,689億円</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black;">(走行経費減少便益)</td> <td>9.6/30億円</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black;">(交通事故減少便益)</td> <td>12/31億円</td> </tr> </table>	総便益	(残事業)/ (事業全体) 464/1,751億円	(走行時間短縮便益)	442/1,689億円	(走行経費減少便益)	9.6/30億円	(交通事故減少便益)	12/31億円	基準年	平成25年
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-right: 1px solid black;">B/C</td> <td style="width: 50%;">2.3</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black;">(事業全体)</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black;">(残事業)</td> <td>4.9</td> </tr> </table>	B/C	2.3	(事業全体)		(残事業)	4.9	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-right: 1px solid black;">総費用</td> <td style="width: 50%;">(残事業)/ (事業全体) 94/763億円</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black;">(事業費)</td> <td>38/608億円</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black;">(維持管理費)</td> <td>56/155億円</td> </tr> </table>	総費用	(残事業)/ (事業全体) 94/763億円	(事業費)	38/608億円	(維持管理費)	56/155億円													
B/C	2.3																									
(事業全体)																										
(残事業)	4.9																									
総費用	(残事業)/ (事業全体) 94/763億円																									
(事業費)	38/608億円																									
(維持管理費)	56/155億円																									
総便益	(残事業)/ (事業全体) 464/1,751億円																									
(走行時間短縮便益)	442/1,689億円																									
(走行経費減少便益)	9.6/30億円																									
(交通事故減少便益)	12/31億円																									
感度分析の結果	<p>【事業全体】 交通量 : B/C=1.4~3.7(交通量 ±10%) 【残事業】 交通量 : B/C=4.8~6.3(交通量 ±10%)</p> <p>事業費 : B/C=2.1~2.5 (事業費 ±10%) 事業費 : B/C=4.8~5.2 (事業費 ±10%)</p> <p>事業期間 : B/C=2.1~2.4 (事業期間±20%) 事業期間 : B/C=4.8~5.0 (事業期間±20%)</p>																									
事業の効果等	<p>①円滑なモビリティの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現道等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる。 ・特急停車駅（桑名駅）へのアクセス向上が見込まれる。 <p>②物流効率化の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際拠点港湾（四日市港）へのアクセス向上が見込まれる。 <p>③国土・地域ネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常活動圏の中心都市へのアクセス向上が見込まれる。 <p>④個性ある地域の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携プロジェクトを支援する。 ・主要な観光地（長島リゾート等）へのアクセス向上が期待される。 <p>⑤安全で安心できるくらしの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三次医療施設（大垣市民病院）へのアクセス向上が見込まれる。 <p>⑥災害への備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一次緊急輸送道路として位置付けられている。 <p>⑦地球環境の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出量の削減が見込まれる。 <p>⑧生活環境の改善・保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NO2排出量の削減が見込まれる。 ・SPM排出量の削減が見込まれる。 																									
関係する地方公共団体等の意見	<p>地域から頂いた主な意見等：</p>																									

- ・桑名市など地元商工会、観光協会などで構成される「桑名地域の幹線道路整備を進める会」より早期整備の要望を受けている。
- ・「中部圏開発整備法」（昭和41年7月）に基づき、中部圏の開発整備に地元の総意を反映させる仕組みとして、昭和41年11月に設置された「中部圏開発整備地方協議会」（9県（関係県：富山、石川、福井、長野、岐阜、静岡、愛知、三重、滋賀県）3市（関係指定都市：名古屋、静岡市、浜松市）より構成）より早期整備の要望を受けている。

知事の意見：

【岐阜県】対応方針（原案）のとおり、事業の継続について異存ありません。

【三重県】本事業は、交通渋滞の緩和や地域経済の発展に寄与する重要な事業です。今後も引き続き、本県と十分な調整をしていただき、暫定2車線の早期4車線化に向けた事業の推進をお願いします。

事業評価監視委員会の意見

- ・「事業継続」することは「妥当」である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・国道258号暫定2車線区間の渋滞損失時間は三重県国道平均の最大5倍と高い状態。
- ・香取南交差点～柚井交差点間では約26万人時間／年の渋滞損失時間が発生。
- ・国道258号暫定2車線区間の内、主要な交差点を含む区間では速度低下による交通混雑が発生し、産業物流における効率性が低下。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・事業進捗率は85%、用地進捗率は99%。
- ・桑名市多度町香取～桑名市多度町下野代（L=1.3km）は改良工事、桑名市多度町柚井～桑名市多度町香取（L=1.9km）は橋梁工事および調査設計、養老郡養老町大巻～桑名市多度町柚井間（L=11.8km）は、道路詳細設計を推進。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・桑名市多度町香取～桑名市多度町下野代（L=1.3km）は、平成26年度の完成開通を予定。
- ・桑名市多度町柚井～桑名市多度町香取（L=1.9km）は、平成27年度の完成開通を予定。
- ・養老郡養老町大巻～桑名市多度町柚井間（L=11.8km）は、概ね10年程度の開通を目指す。

施設の構造や工法の変更等

- ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。